

令和5年8月4日（金）庄原市立庄原小学校

### 【夢あふれる学校図書館見学会の様子】



昨年度「子ども司書」に認証された6年生の児童が取組の説明・見学会の案内・質疑応答などをしてくれました。



### 【参加者アンケートより】

- ・ 児童主体の読書活動の取組が至る所に見られました。児童が主体的に活動したいと思わせる動機付けや、やりたいことが叶うと思わせる学校風土が何より大事だと感じます。図書館改造に向けた様々なハード面の取組と共に、ソフト面の指導者の“たがやし”を大切にしていきたいと思えます。
- ・ まず、児童が「こうしたい！」「～ができると、もっと良くなる！」という想いをもって、様々な工夫をしているということが本当に素晴らしいと感じました。また、棚を無くしたり、読書スペースを設けたり、先生方が児童の想いを実現しようとしていることがとても素敵だと感じました。学校の様々な場所に本を手にとれる環境が整っており、子供たちの身近に本があることに大きな意味があるのだと感じました。図書館を見せていただいて、ユニバーサルデザインの観点からも、本を借りやすく、本と関わることに對してハードルを下げた環境であると感じました。子ども司書さんから、「座って本を読むことが苦手な子のために設置した。」という説明をしてもらい、子供たち同士でも、より使いやすく、本を楽しめるような工夫を重ねていることが印象的でした。
- ・ 児童が児童の声でつくることで、読書活動は活性化していくと学びました。どの子供も「もっといい図書館にしたい」という想いをもち、活動・工夫している姿が伝わり、とても素晴らしかったです。

学校司書だけでなく、図書委員会の子が図書館の本の並べ方を工夫したり、読書スパー

スを整えたりと、子供の活動とリンクさせていくことで、より他の児童も読書に意欲的になれそうだと、とても参考になりました。

- ・ 子供たちが自分で考えて図書館のリニューアルをしていくことで、図書にまつわる活動に対して主体的に取り組んでいると感じ、素晴らしいと思いました。子供たちが自分で考えたことで、見て、探して分かりやすい図書館になっているのだと思いました。

本が学校中にあり、どの児童も身近に感じ、手に取ることができる環境でした。自校の子供たちにも庄原小の図書館を見学させたいなと思いました。

- ・ 子ども司書のみなさんが、目を輝かせ、生き生きとプレゼンテーションや説明をしてくださり、学校全体での取組が、本への親しみや関心をもった、心豊かな子供たちを育てていることを学びました。

代表の子供たちから、全体の図書への興味がつながれているのだろうと思います。児童の自主性を伸ばしていくことを学びました。また、子供たちを信じる力も学びました。

- ・ 子供たちの主体性から、学校図書館、読書活動がより一層よいものになるということを感じました。子供たちから学校図書館の課題、リニューアル計画などが出ていて素晴らしいなと思いました。一人一人が質問に、意図や思いを含めて答えており、子供たちの主体性を感じました。

本当に夢あふれており、大変参考になりました。子供たちの声が聞けてよかったです。

- ・ 学校図書館内の机・椅子・棚の数、高さ、置き方等、見習いたいことがたくさんありました。外向きのカウンター型の机配置は、学校図書館では見たことがなかったですが、とても良いなと思いました。
- ・ 子供たちに活躍の場をつくり、支援していけば、これだけ子供たちが主体的に活動するのだということを見せていただきました。学校管理の面で心配な要素も多いと思いますが、子供を信じ、委ね、できる限りのことをさせてやる先生方の心意気、気概を感じました。
- ・ 「子供たちの意見」を取り入れるようにしたいと感じました。本を借りる子供たちが感じている使いにくさや希望等を図書委員会や教員で解決していくところから主体性も育てられていくのだと感じました。学校全体で、他の教育も巻き込んで、子供が本に触れることができる環境づくりを行っていきたいと思います。
- ・ 子供たちに、どんな図書館だったら行きたくなるか、聞いてみようと思います。その意見から、よりよい図書館を子供と一緒に考えてみたいです。高学年になるにつれ、読書をあまりしなくなる傾向にありますが、学校内のフリースペースなどで、様々な本に触れたり、そのフリースペースや校内のポップ、掲示物などにも子供の手が加わったりすると、自然と目を引き、読書への意識付けとなると思うので、参考にし、取り組みたいです。
- ・ 禁帯出の図鑑類等が、よく使う学年の傍に置いてあるのが良いと思いました。学校図書館の「調べる」機能がしっかり発揮できるように工夫したいと思いました。

